

単元名 【旧】世界からみた日本の姿

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 世界と比べた日本の自然環境や災害・防災、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの各項目に関する特色とそれに基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解するとともに、日本全体の主題図やグラフなどを、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目して読み取ることができる。
- (2) 世界と比べた日本の自然環境や災害・防災、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの各項目による地域区分を、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目し、比較したり関連付けたりして考察し、その結果を表現することができる。
- (3) 世界と比べた日本の自然環境や災害・防災、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの各項目に関する特色と、各項目による地域区分に関心をもち、日本の地域的特色を意欲的に追究するとともに、各項目に関わる課題を解決しようとする。

標準的な展開例

11220101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 世界からみた日本の地域的特色について、どのような視点から調べることができるのかを考え、学習計画を立てる</p> <p>★世界と日本の地域的特色をつかむために、どのような視点から調べることができるのだろう。</p> <p>○地域的特色をつかむための視点を考え、まとめる。 「自然環境」「人口」 「自然・エネルギー」「産業」 「交通・通信」</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>●世界と比較すると、日本はどのような地域的特色をもった国なのだろう。</p> <p>●日本にはどのような地域的特色があるのだろう。</p> <p>2 世界の地形について調べる。</p> <p>★大地の不安定な地域と安定した地域には、それぞれどのような特色があるのだろう。</p> <p>○変化に富む世界の山地について調べる。</p> <p>○広大な平野と長大な川について調べる。</p> <p>○地形からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>3 日本の地形について調べる。</p> <p>★世界と比べて、日本の地形にはどのような特色があるのだろう。</p> <p>○日本の山地や、山と川がつくる多様な地形について調べる。</p> <p>○変化に富んだ日本の海岸について調べる。</p> <p>○気候から見た日本の地域区分について調べる。 ・日本海側の気候に含まれる新潟は、夏よりも冬の降水量が多い。 ・南西諸島の気候に含まれる名瀬は、一年を通して比較的气温が高い。</p> <p>4 世界の気候について調べる。</p> <p>★世界にはなぜさまざまな気候があるのだろう。</p> <p>○緯度・高度と気温の関係について調べる。</p> <p>○風と気候の関係について調べる。</p> <p>○世界の気候区分について調べる。</p> <p>5 日本の気候について調べる。</p> <p>★日本の気候には、地域によってどのような違いがあるのだろう。</p> <p>○気候から見た日本の地域区分について調べる。</p>	<p>・教P. 131</p> <p>・（位置や分布、地域）</p> <p>・世界地理で学習した視点を想起させる。</p> <p>・教P. 132～P. 133</p> <p>・世界には、地震や火山活動が活発な造山帯があることを押さえる。</p> <p>・造山帯以外の安定大陸では、なだらかな山地や平野が広がっていることを押さえる。</p> <p>・安定大陸の平野には、長大な河川が多いことを押さえる。</p> <p>・教P. 140の資料1を活用して、フォッサマグナの東側と西側では、山地の方向が違っていることに気付かせる。</p> <p>・教P. 134～P. 135</p> <p>・不安定な地域に位置するため、複雑な地形がみられることに着目させる。（位置や分布）</p> <p>・日本は環太平洋造山帯に含まれることを押さえる。</p> <p>・平野の近くには川があることに着目させる。</p> <p>・教P. 134の資料1を活用して、フォッサマグナの東側と西側では、山地の方向が違っていることに気付かせる。</p> <p>・変化に富む海岸について調べる。</p> <p>・砂丘も海岸の一つであることに気付かせる。</p> <p>【評】日本の各地方の雨温図の特色について、気温の高低や推移、降水量の多少や推移に着目して読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 136～P. 137</p> <p>・教P. 136の資料1から、緯度や高度が気候とどのような関係があるのか気付かせる。</p> <p>・偏西風や季節風など、風が気候に影響を与えていることをつかませる。</p> <p>・気温と降水量の違いから、世界の気候は大きく六つの気候帯に分けられることを押さえる</p> <p>・教P. 138～P. 139</p> <p>・主に温帯に含まれる日本の中でも、地域によって気温や降水量が異なることに着目させる（位置や分布）</p> <p>・日本海岸気候区の雨温図において冬の降水量</p>

- ・日本海側の気候に含まれる新潟は、夏よりも冬の降水量が多い。
- ・南西諸島の気候に含まれる名瀬は、一年を通して比較的気温が高い。

- 冬から春の気候について調べる。
- 夏から秋の気候について調べる。

6 世界と日本の地震・火山被害について調べる。
★なぜ日本では多くの地震・火山災害が起こるのだろう。

- 自然災害と日本について確認する。
- 地震や津波による災害について調べる。
 - ・地震
 - ・津波
 - ・液状化現象
- 火山の噴火による災害について調べる。

7 世界と日本の気象災害について調べる。
★なぜ日本ではさまざまな気象災害が起こるのだろう。

- 様々な気象災害について調べる。
 - ・洪水
 - ・土石流
 - ・高潮
 - ・干害
 - ・やませ
 - ・冷害
 - ・雪害
- 自然災害と人災について調べる。
- ハザードマップの想定を上回る状況の場合は、避難所や避難ルートをどのようにすればよいかを考える。

- 本時の学習内容を活用して、身近な地域のハザードマップを使って、自宅や学校から周辺の避難所までの避難ルートを考える。

8 日本の防災対策について調べる。
★多くの自然災害から地域や人々の生命を守るために、私たちはどのようなことに取り組めばよいのだろう。

- 防災・減災への工夫について調べる。
 - ・ハザードマップ
 - ・ライフライン
 - ・自助
 - ・共助
 - ・公助
- どのように災害と向き合うかについて考える。
 - ・地域で避難訓練があるときはできる限り参加したり、自分たちが生活している地域で自然災害の被害が起きやすい場所を調べたりして、防災対策をしていきたい。

- 人口からみた日本の地域区分について調べる。

9 ハザードマップの活用のしかたを調べる。

- ★ハザードマップを活用しよう。
- 地形図から、想定される浸水の深さが場所によって異なる理由を考える。
- 新課程の教科書P.151の資料を活用して、浸水すると想定されている深さを読み取り、安全に避難するルートを考える。
- ハザードマップの想定を上回る状況の場合は、避難所や避難ルートをどのようにすればよいかを考える。

- 本時の学習内容を活用して、身近な地域のハザードマップを使って、自宅や学校から周辺の避難所までの避難ルートを考える。

10 世界の人口分布と変化について調べる。
★世界の人口構成や人口分布は、どのように変化してきたのだろう。
○世界の人口の分布について調べる。

が多いのは、雪によるものであることに気付かせる。

- ・日本アルプスを越えて太平洋側に達するところには水分を失っていることから、愛知県の冬は晴れている日が多いことに気付かせる。

【評】日本の各地方の雨温図の特色について、気温の高低や推移、降水量の多少や推移に着目して読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・季節風が日本の気候に与える影響について押さえる。
- ・梅雨や台風について押さえる。
- ・気圧について、理科との関連を確認するとよい。

・教P.140～P.141

- ・地域によって、地震や津波、火山の噴火などの災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）

- ・日本は環太平洋造山帯にあるため、世界の中でも地震、津波、火山の噴火による自然災害が多い国であることを押さえる。

- ・阪神・淡路大震災や東日本大震災について押さえる。

- ・教P.140の資料1を活用して、日本の火山の多さや位置をつかませる。

・教P.142～P.143

- ・地域によって気象災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）

- ・日本は山が多く、海岸部の平地に多くの人が住んでいるため、風水害が頻繁に発生することに気付かせる。

- ・例として、2019年10月の台風19号による豪雨では神奈川県箱根町で24時間に942.5mmの降雨があったことなど、想定を上回る状況があり得ることを押さえる。

・教P.144～P.145

- ・自然災害が起こりやすい日本で、様々な防災や減災の取り組みが行われていることに着目させる。（人と自然とのかかわり）

- ・愛知県や自分が住んでいる市町のハザードマップを確認させるとよい。

【評】身近な地域における減災の取り組みの意味や意義を踏まえて、防災や減災に関わる諸活動にどのように参加できるかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教P.149

- ・ハザードマップの読み取りに際しては、対象地域だけでなくその周辺地域の様子を把握しなければならないことを押さえる。

- ・新教科書を電子黒板やタブレットに映し出して活用させる。カラーで見ることが望ましいため、提示が難しい場合は省略してもよい。

- ・例として、2019年10月の台風19号による豪雨では神奈川県箱根町で24時間に942.5mmの降雨があったことなど、想定を上回る状況があり得ることを押さえる。

・教P.150～P.151

<p>○世界の人口の変化について調べる。</p> <p>○環境問題への取り組みについて調べる。</p> <p>○資源・エネルギーからみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>11 日本の人口分布と変化について調べる。 ★日本の人口構成や人口分布は、どのように変化してきたのだろう。</p> <p>○人口分布のかたよりと課題について調べる。 ・関東地方から九州北部にかけて、都市が発達しているところは人口が多く、高齢者の割合が比較的低い。一方で北海道、東北、北陸、中央高地、山陰、四国、九州南部は人口が少なく、高齢者の割合が高い。</p> <p>○過密化と過疎化が進む地域の課題について調べる。</p> <p>○人口減少と少子高齢化について調べる。</p> <p>○日本の第3次産業について調べる。</p> <p>○産業からみた日本の地域区分について調べる。 ・農業は北海道・東北・北陸・中央高地・山陰・南四国など、人口が少なく稲作や畑作、果樹栽培が盛んな地域に多い。漁業は工場が立地されている太平洋ベルトを除く沿岸部に多い。工業は太平洋ベルトを中心に、内陸部・北陸・東北などへの広がりが見られる。商業・サービス業は太平洋ベルトや仙台・札幌などの地方中枢都市付近に発達している。</p> <p>12 世界と日本の資源・エネルギーについて調べる。 ★日本の人々が生活していくための資源やエネルギーは、どのように確保されているのだろう。</p> <p>○鉱産資源を外国に依存する日本について調べる。</p> <p>○資源を確保するための取り組みについて調べる。</p> <p>○環境問題への取り組みについて調べる。</p> <p>13 世界と日本の第1次産業について調べる。 ★日本の第1次産業には、地域によってどのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○日本の農業について調べる。 ・近郊農業 ・園芸農業 ・酪農 ・畜産業</p> <p>○日本の漁業や林業について調べる。 ・養殖業 ・栽培漁業</p> <p>○日本の農林水産業の課題について調べる。</p> <p>○交通・通信からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>14 世界と日本の第2次産業について調べる。 ★日本の第2次産業には、地域によってどのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○日本の第2次産業について調べる。 ・太平洋ベルト</p> <p>○日本企業の外国進出について調べる。</p> <p>○日本全体の特色を説明しやすいと考えた区分を白地図に書き込み、オリジナルの地域区分図を作成する。</p> <p>15 世界と日本の第3次産業について調べる。</p>	<p>・教P. 150の資料1を活用して、世界の人口が多いところと少ないところがどのような地域かをつかませる。</p> <p>・教P. 151の「スキルUP」を活用して、人口ピラミッドの読み取り方を押さえる。</p> <p>・再生可能エネルギーは、開発が進められているが、エネルギー供給量に占める割合はまだ低いことを押さえる。</p> <p>・教P. 152～P. 153</p> <p>・地域によって人口分布に違いがあり、過密・過疎が問題となっていることに着目させる。 (位置や分布)</p> <p>・教P. 152～P. 153の資料1・4を活用して、人口密度が高い地域と低い地域の特色に気付かせる。</p> <p>【評】資料から人口密度が高い地域と低い地域の特色とその理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教P. 152の資料2を活用して、過密化と過疎化が進む地域の課題を押さえる。</p> <p>・情報化が進んだことにより、インターネットショッピングなどの通信販売が急速に広がったことに気付かせる。</p> <p>【評】日本のそれぞれの産業が、どのような地域で盛んに行われているか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 154～P. 155</p> <p>・日本は鉱産資源に乏しく、外国に多くを依存していることに着目させる。(位置や分布)</p> <p>・教P. 154の資料1から、日本は生活や産業を支える資源の多くを輸入に頼っていることに気付かせる。</p> <p>・資源を安定して確保するために、大陸棚や太平洋の深海底での資源の開発が進められていることを押さえる。</p> <p>・開発や採掘だけではなく、「3R」など限られた地球の資源を有効活用するための取り組みをしていることを押さえる。</p> <p>・再生可能エネルギーは、開発が進められているが、エネルギー供給量に占める割合はまだ低いことを押さえる。</p> <p>・教P. 158～P. 159</p> <p>・アメリカの企業的農業と比較して、日本の農業の特色をつかませる。</p> <p>・日本の食料自給率の低さを押さえる。</p> <p>・排他的経済水域によって、漁獲方法に変化が生じたことを押さえる。</p> <p>・林業は、後継者不足が課題であることを押さえる。</p> <p>・TPPなどの経済連携協定によって、さらに外国産の食料品の輸入が増えた場合、日本の農家にどのような影響があるのかをつかませる。</p> <p>・教P. 160～P. 161</p> <p>・工業地帯や工業地域とその特色について押さえる。</p> <p>・安い労働力を求めて国内の工場を外国に移したことで、産業の空洞化が進んでいることに気付かせる。</p> <p>・出来上がった地域区分図を、教P. 138～P. 139の地図の7地方区分と比較させる。</p>
--	--

<p>★日本の第3次産業には、どのような特色がみられるのだろう。</p> <p>○日本の第3次産業について調べる。</p> <p>○日本のサービス業の現状と変化について調べる。</p> <p>○産業からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>・農業は北海道・東北・北陸・中央高地・山陰・南四国など、人口が少なく稲作や畑作、果樹栽培が盛んな地域に多い。漁業は工場が立地されている太平洋ベルトを除く沿岸部に多い。工業は太平洋ベルトを中心に、内陸部・北陸・東北などへの広がりが見られる。商業・サービス業は太平洋ベルトや仙台・札幌などの地方中枢都市付近に発達している。</p> <p>16 世界各地の結びつきについて調べる。</p> <p>★交通網や通信網の発達によって、世界の地域間の結びつきはどのように変化したのだろう。</p> <p>○交通網や通信網の発達について調べる。</p> <p>○発展する貿易について調べる。</p> <p>17 日本の結びつきについて調べる。</p> <p>★交通網や通信網の発達によって、日本の地域間の結びつきはどのように変化したのだろう。</p> <p>○国内の交通網の発達と生活の変化について調べる。</p> <p>○外国との間の人の動きについて調べる。</p> <p>○通信網の発達と生活の変化について調べる。</p> <p>18 学習を振り返り、単元のまとめをする。</p> <p>★世界からみた日本の姿を振り返ろう。</p> <p>○地形と人口の地図を見比べる。</p> <p>○様々な日本の地図を見比べる。</p> <p>○日本がどのような特色をもった国であるかまとめる。</p>	<p>・教P. 162～P. 163</p> <p>・教P. 161の資料5から、日本の第3次産業の変化についてつかませる。</p> <p>・自動車を運転しない人やインターネットを使いきなせない人は「買い物弱者」になってしまっていることを押さえる。</p> <p>・日本は高齢社会であることから、医療・福祉業の成長していることや、インターネットの普及によって情報通信業が成長していることをつかませる。</p> <p>【評】日本のそれぞれの産業が、どのような地域で盛んに行われているか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 164～P. 165</p> <p>・人口密度が高い地域に航空路の目的地が集中していることに気付かせる。</p> <p>・教P. 164の資料3から、世界の人口の増加に対して、携帯電話やインターネットの利用者数の増え方が大きいことをつかませる。</p> <p>・教P. 165の資料5から、国や地域によって輸出入品目や輸出入額の割合が大きく違うことをつかませる。</p> <p>・教P. 166～P. 167</p> <p>・人や物資の移動・輸送方法や、通信技術の発展に着目させる。(地域どうしのつながり)</p> <p>・交通の便がよいところに、工場や物流倉庫が集まる傾向が強いことをつかませる。</p> <p>・過疎化が進んでいる地域では、公共交通機関が廃止・減便され、生活が不便になっていることをつかませる。</p> <p>・情報通信技術の進歩によって、インターネットを使って医師の診断が受けられるなど、生活に変化があったことに気付かせる。</p> <p>・教P. 168</p> <p>・人口密度の高い地域・低い地域と地形の関係について考えさせる。</p> <p>・様々な日本の地図を、人口密度や地形との関係に着目しながら見比べさせる。</p>
---	---

【 備 考 】